

河川17 吉野川中流域の直轄砂防事業(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知14	高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」(高知県建設業協会、1998年)、929-930頁	<p>直轄砂防事業 (中略) 完成砂防施設は着工以来1979年までにダム工12基、護岸工1カ所、流路工1カ所の計14カ所であったが、80～96年の間に58カ所が完成し、(中略)土砂災害の危険から地域住民を守り、多大の効果を挙げている。</p> <p>近年は人と自然の共生を重視した砂防に積極的に取り組み、土佐郡大川村の朝谷第2堰堤は“白滝の里”の近くという立地を考慮して訪れた人がくつろげるように施設周辺を整備し、本川村の桑瀬床固工群は周辺の豊かな自然環境を生かした事業展開をし、釣りや水遊びが楽しめる水辺空間を創出し、地域の活性化に寄与している。</p>
四国38	建設省四国地方建設局吉野川砂防工事事務所編「砂防果てしなき闘いー吉野川の砂防事業ー」(建設省四国地方建設局吉野川砂防工事事務所、1991年)、11頁	<p>土砂災害の防止に成果をあげる砂防施設</p> <p>吉野川の直轄砂防区域では、土砂の生産・流出がおびただしい祖谷川流域、南小川・赤根川流域、そして吉野川上流域の各所にいろいろな種類の砂防施設を建設。支川からの土砂生産・流出を抑え、土石流から人々の暮らしを守り、さらに下流域の安全を確保するなど、多大な成果をあげています。</p>